

集鳴時計工争議

我々ナポルツ時計工場職工對資本主間の争議は、本年に入り既に二回發見し、其の都度資本側の威嚇を蒙りて満足なる解決を見た。

然るに本月九月資本主側は僅か十日以前に協定せる契約を無視して、我が時計工聯合會幹部十四名に對し、衆如「工場内の秩序紊亂の恐れあるに付き解雇す」との發遣なる通告を發した。十四名は直ち之れを拒否し、組合員全部結束して、此の通告の撤回を迫るべく、翌十日出勤した。然るに會社門前に「本日休業す、警官の外は出入を禁ず」との突止極まる措置をなし、恰も警官を後擁として、自己の職務を遂げんとするが如き態度に出た。我々職工は止むなく中島支配人に交渉すべく、その肩毛へ赴ける途上、一隊の警官は我々に解散を命じ、十餘名は勇躍前に横取られ、數名は負傷した。

十一日、漸く我々交渉委員は、會社代表者等と會見したが、彼等は不誠實極まる態度を以て斷

明十五日示威運動

午後一時
音羽護國寺
集合出發

然る交渉を打ちひけす。十三日、東京労働團體の代表とも見るべき労働組合同盟會の代表者諸君が、この惡狀を監視するに忍びずして、會社の不誠實を責めたが、何等反省する所なく、同日の夜二回交渉會見際しても、全然高懸向態度に出で、三百疋我々職工の生命を蹂躪し去らんとし得る。

要するに彼等資本家は、この不氣に乗じて、我々に挑戦し、組合を破壊し、労働者を奴隷化せしむるを企てるのだ。

我等は斷じ、此の如き困難に甘んずる者では無い！我等は勇敢猛烈に彼等に突進する事を誓ひ、茲に經過を報じて、諸君の熱情に訴ふ。

三月十四日

小石川區音羽町一ノ二三須山方

時計工聯合會